

過去の風景 寺田栄次郎 2011年（実寸）  
—寺田栄次郎展より—

■ 寺田栄次郎展—10cm四方の小宇宙—

第3展示室

■ 春の優品選

前田育徳会尊經閣文庫分館

■ 刀剣と槍

第2展示室

- 2月の前半の当館主催展
- 2月の企画展示室
- 平成24年度 友の会会員募集要項
- ミュージアムレポート
- 所蔵品紹介

# 春の優品選

2月10日(金)～3月24日(土)会期中無休

前田育徳会尊經閣文庫分館では、東京駒場の(財)前田育徳会が所蔵する文化財を、展示替えを行いながらご紹介しています。二月十日からは「春の優品選」と題した特集展示を行います。今号と次号の日よりでは、よくある質問「育徳会所蔵のコレクションがどのように形成されたか」に触れながら、ご案内します。

育徳会の所蔵品といえば、藩政期の歴代藩主の所用品や、特に五代藩主綱紀による尊經閣文庫が有名ですが、明治時代に収集されたコレクションについては、あまり知られていません。これらは、明治四十三年に賜った明治天皇の行幸にまつわるコレクションがほとんどで、さまざまなエピソードが秘められています。

この季節にふさわしい『梅図』は、天皇を迎えるパフォーマンスとして描かれたものです。この日、前田邸日本館の和室には、六名の日本画家が

控えていました。川端玉章・福井江亭・川端玉雪・荒木寛畝・池上秀畝・野口駿尾は、その場で天皇より『梅』という画題を与えられて、揮毫したのです。

中央に淡く幹を渡したのは、江亭。その下に鋭い枝振りを描いたのが玉章で、その署名の横には「行幸記念」と記されています。その下に枝を伸ばしたのが、傘寿を迎えた寛畝と駿尾。画面上部に、見上げるように枝を這わせたのは、玉雪と秀畝です。

目前で揮毫するこうしたパフォーマンスは、江戸時代に流行した書画会を彷彿とさせます。前田家はさまざまな趣向をこらし、天皇を迎えたのでした。

梅図(御臨幸記念)

# 寺田栄次郎展 - 10cm四方の小宇宙 -

2月10日(金)～3月24日(土)会期中無休

金沢美術工芸大学教授でヨーロッパ古典絵画技法と描画材料について研究を続けられる寺田栄次郎氏の特集展示を行います。

中世キリスト教絵画に「黄金背景テンペラ画」という作品群があります。以前寺田氏はこの技法を現代に生かして、静物や女性像を金箔地に構成し、大画面に描きました。それはテンペラや金箔接着剤の研究がもたらせており、寺田氏にとって研究と制作は表裏一体のものといえます。

近年は十センチ四方の極小エリアに、風景を緻密な描写で実写と幻想を交えて描く作風へと移りました。十七世紀オランダの油彩技法と材料研究をもとに、絵具と下地剤をほどこした板を自作した上での制作です。小さな画面は見るものに凝視を求めます。そして見つめていると小さな画面が奥行き深い巨大な世界に見えてきます。不思議な体験です。

今回の展示では十センチ四方の均一なサイズの作品が約六十点並びます。これまでと異なった絵画空間をご堪能ください。

なお、会期中寺田氏による実技講座を行います。

講座名 / 十七世紀ヨーロッパ古典技法による油彩ミニチュール制作

日時 / 全4回 2月19日(日)、2月22日(水)、3月2日(金)、3月4日(日)

いずれも午後1時から午後4時。四回で一点の作品を制作します。

会場 / 広坂別館ホール(当館石浦神社寄り)

受講料 / 五〇〇円(四回分の絵具等材料費)

講師 / 寺田栄次郎氏(金沢美術工芸大学教授・古典絵画技法研究家)

内容 / 写真風景をもとに、十センチ四方のミニチュール作品を、十七世紀ヨーロッパ古典技法を学びながら描きます。

定員 / 20名

応募要項 / 往復はがきでお申込みください。多い場合は抽選となります。

宛先 〒920-0963 金沢市出羽町二一ー一 石川県立美術館 寺田栄次郎展講座係

返信はがきにはお名前と住所をご記入ください。

2月10日(金) 必着です。



過去の風景 寺田栄次郎 2011年

## 2月前半の当館主催展

1 F 企画展示室

# 古美術優品展

—山川コレクションを中心とした茶の湯の美—

1月4日(水)～2月5日(日)



伊羅保片身替茶碗

十二月号の美術館だよりで『大正名器鑑』の著者で有名な高橋篤庵が、山川家を訪問した際の見聞記「金沢聞秘録」より香合を紹介しましたが、今回は茶碗を紹介します。「刷毛目茶碗」は、「刷毛目編笠茶碗は無疵にして見込に目五つあり。純白なる刷毛の中より青釉の見え渡る景色得も言はず。暈形の斑点大小数個あり。外部は白釉刷毛厚く、底廻り青釉を見せて竹の節高台の美事なる蓋し天下刷毛目茶碗中十指の外に出でざる者ならん。」「伊羅保片身替茶碗」は、「所謂千種伊羅保手なるべく、高台より茶碗内外にかけて真半分に、色釉の一線襷を成したる風情甚だ妙なり。」と詳述されています。

本展は、山川家三代山川庄太郎氏の没後五〇年の節目を記念して、藩政時代からの文化が息づく金沢の茶の湯の美を中心に、当館が所蔵する古美術の優品のなから、重要文化財四点、県指定文化財九点を含む約一三〇点を公開しています。

最初のコーナーには、初代魚住為楽(昭和三〇年銅鑼で重要無形文化財保持者)が昭和十五年の皇紀二六〇〇年を記念して、前田家十六代利為候のために制作した銅鑼です。箱書にもあるように、作者会心の作品で、その音色を心で聞きながら鑑賞下さい。「瀬戸茶入銘孫六」や「梅花天目」は、その作品を保護し、その歴史を示す箱とともに展示しています。次に名物裂とは、そのほとんどが中国の主に元・明・清の時代に製織され、鎌倉・室町から江戸時代中期にかけて日本に渡来した織物類の固有名称です。金襴、緞子、間道に代表され、書画の表装裂や、名物茶道具の仕覆など、優れた鑑識眼をもつ茶人たちに好まれました。前田家は名物裂の宝庫と言われますが、三代藩主前田利常が収集したものです。利常は今日の加賀文化の礎を築いた文化大名で、名物裂に利常の美意識を探っていただきます。

前田育徳会  
尊經閣文庫分館

# 茶道具と名物裂

1月4日(水)～2月6日(月)



双鳳丸文様金襴(二人静金襴)

## 第2展示室

# 刀剣と槍

2月10日(金)～3月24日(土)会期中無休

今回は館蔵品、寄託品の中から刀剣と槍を展示します。最初に槍に注目したいと思います。槍の制作が急激に増加するのは、室町時代中期以後と考えられます。そこには、戦闘形態が鉄砲の導入により集団戦となり、最初に鉄砲を撃ちかけた後、騎馬隊が槍を振るって敵陣に切り込み、続いて歩兵が槍ふすまを作って突撃するパターンが定着したことによります。加賀藩祖前田利家が「槍の又左衛門」として武名をあげたように、室町から江戸初期は槍による戦の功名談が数多くあります。そして幕藩体制が確立すると、槍は武家の表道具として威儀の象徴となっていきました。

今回は、鎌倉時代末に越前藤島から加賀に移ったと考えられている槍の名工で、数代にわたって当地で活躍した藤島友重をはじめ、金沢を本拠と

し、やはり江戸時代をおして数代にわたり活躍した信友などを展示します。

刀剣では、江戸時代に加賀の地で作られた、いわゆる加州新刀を中心に展示します。

その中には、戦後連合国軍に武装解除の一環として接収された刀剣類のうち、東京都北区赤羽に集められたために、「赤羽刀」と呼ばれていたものが含まれています。「赤羽刀」はその後一部が日本に返却され、所有者不明の数千点が長年、東京国立博物館に保管されてきました。やがて平成十一年に、それぞれの刀剣にゆかりの深い各地の博物館施設に譲与されました。



槍 両鑄造  
銘加州住藤嶋友重  
藤嶋友重 江戸17世紀

# 2月前半までの当館主催展

1月4日(水)～2月6日(月)会期中無休

## 第5展示室

### 明治の工芸

明治期における、美術工芸の発展に貢献したのは、政府の諸外国向け輸出政策でしたが、皇室もまた大きな役割をはたしています。

明治二十三年(一八九〇)年に発足した帝室技芸員制度は、帝室(皇室)の美術工芸品を制作した美術家が、勅命による作品制作や、帝室博物館(現東京国立博物館)総長の諮問に応じることが義務づけられる一方、終生勅任待遇として年金を付与されるものです。本展示の出品作家の中では、陶芸の宮川香山、漆芸の柴田是真、川之辺一朝がその認定を受けており、金工の山田宗美は内定を受けながら、正式な認定を前に亡くなりました。皇室の存在とこの制度は、工人たちへの経済的な援助のみならず、技術の維持と向上に繋がったのです。



県文 鉄打出鳩置物  
山田宗美

## 第2展示室

### 新春を寿ぐ

企画展示室では、本館所蔵の山川コレクションを中心とした茶道具を紹介する「古美術優品展」を開催中ですので、今回は第二展示室で展示中の茶道具を二点、ご紹介します。

◆石川県指定文化財『葫蘆様釜』(天徳院蔵)

「葫蘆」とは瓢箪のことで、瓢箪形の釜です。天和四年(一六八四)天徳院第三世月坡道印の求めによって、初代宮崎寒雉が作り、「月坡釜」とも呼ばれています。寒雉がまだ「彦九郎義一」と署名していた時期のもので、瓢箪を釜の形に作り変えたデザイン力がうかがえます。

◆赤楽茶碗 銘僧正 楽道入

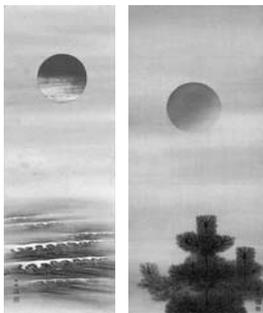
通称「ノンコウ」として、巧みな陶技で知られる楽家の三代目です。内箱蓋裏に「宗旦老所持」の書付があります。



県文 葫蘆様釜(天徳院蔵)

富士が四点、日の出が二点、雨中山水も二点出品され、今回の展示では「比較」が一つの楽しみでもあります。同じテーマでも違う作家が描くとどうなるか。その逆も然り。一つの作品でも二度味わえるのが今回の展示の特徴となっています。テーマの「ハレ」と「ケ」で作風の違いを比較するのはもちろん、行きつ戻りつしながら、楽しんで頂きたい展示となっています。

お節料理やお供え物など、正月を迎える準備をしていると、いかに我々の生活にハレとケが密着してきたかというのと同時に、ハレとケの折り目が失われつつあるということも実感します。今一度日本の古く美しい生活に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。



日の出図  
玉井紅鱗

旭日稚松図  
垣内雲嶙

### ハレを描く日本画

## 第6展示室

今回四十九点の佐々木三六が描いた油彩・水彩・素描作品を展示しました。これは三六没後の昭和五年に金城画壇展で併設された遺作展以来のことです。約八十年ぶりと成ります。制作年を記したもののや、作品の裏に貼られた年齢を記した紙片を頼りに分類していくと、明治八年から十四年までのイタリア留学時の油彩小品、三十年に金沢に図画教師として赴任してからの水彩、晩年、大正十四年以降の油彩と水彩、そして三十年以降の図画教師時代と思われる素描に区分することができました。圧巻は水彩と素描で、三十年代以降の水彩画には、克明に当時の金沢や近郊の情景が記録され、そして点景として農婦達が描かれることによって、詩情が加味されています。また素描はいずれも精緻な写実で、三六の高い描写力を伺わせ、本県で洋画を学ぶ者の良き手本となったことと思われれます。



石浦神社 明治31年  
かつの金沢城の石垣が描かれている

### 洋画の先駆者 佐々木三六展

## 第3展示室

# 2月の企画展示室

## 第7～9展示室

### 金沢学院大学美術文化学部 第9回 卒業研究制作展

2月29日(水)～3月4日(日)会期中無休

今年も、美術文化学部の三学科、美術工芸学科(日本画・洋画・陶芸・漆芸)、情報デザイン学科の卒業制作、美術文化専攻科修了制作、そして文化財学科卒業研究の成果を発表いたします。小さな学部ですから出品作品数は多くはありませんが、一人ひとりの表現や解釈の多様性に、今日の若者の感性や関心の傾向を読み取ることは楽しいものです。どうかご覧いただき、忌憚のないご批評ご感想をお伝え下さいますようお願い申し上げます。

◇入場無料  
◇連絡先

金沢市末町一〇

金沢学院大学美術文化学部担当受付

TEL 076-229-8775

## 第7～9展示室

### 第18回北陸国展

2月10日(金)～16日(木)会期中無休

北陸国展は北陸在住及び、ゆかりのある国展出品者等で構成され、今回は、絵画部二十六名、写真部二十五名が力作、大作を発表します。またフリースペース展示では宮田義廣(絵画部)、蔵明雄(写真部)が作品をまとめて発表するとともに、広坂別館にて写真部受賞者会員準会員秋季展(東京)の巡回展示も行ないますので合わせてご高覧ください。いますようお願い申し上げます。

◇入場無料

◇後援 北國新聞社 テレビ金沢

◇連絡先

津幡町七野一〇七一一

本田正史(北陸国展事務局)

TEL 076-288-1819

# 2月の行事予定

■土曜講座		美術館講義室 聴講無料	
4日(土)	午後1時30分 保存について	宮衛	学芸第一課長
11日(土)	午後1時30分 金森映井智と高岡銅器	南俊英	担当課長
18日(土)	午後1時30分 流転する美術品 —茶道具から浮世絵まで—	村上尚子	学芸主任
25日(土)	定朝	谷口出	普及課長
■ビデオ鑑賞会		美術館ホール 入場無料	
12日(日)	午後1時30分 東大寺 歴史篇 —東大寺 その歩み— (30分) 東大寺 美術篇 —東大寺 そのすぐれた美— (30分)		
■実技講座			
午後1時～午後4時		広坂別館ホール 受講料五〇〇円	
講座名 十七世紀ヨーロッパ古典技法による油彩ミニチュール制作			
講師 寺田栄次郎(金沢美術工芸大学教授・古典絵画技法研究家)			
全4回 2月19日(日)、2月22日(水)、3月2日(金)、3月4日(日)			
※応募方法等詳細は2ページを参照下さい。			

絵画、彫刻、デザイン、工芸、美術教育の各分野の学部、大学院生による平成二十三年度卒業・修了作品を展示します。これらは、多様な分野へ進出を目指す学生達が、自らの学生生活の総決算として地道に努力を重ね、且つ創造的に研究し制作して完成させたものです。展示点数は約二十五点、是非ご高覧下さい。そして忌憚のないご批評、ご助言をお願いいたします。

◇入場無料  
◇連絡先

金沢市角間町

金沢大学人間社会学域学校教育学類

江藤 望

TEL 076-264-5582

### 金沢大学 美術教育専修卒業制作展 教育学研究科修了制作展

2月23日(木)～26日(日)会期中無休

## 第7展示室

# 平成24年度 友の会会員募集

3月1日（木）から受付開始！郵送でのお申し込みは郵便振替で現会員で継続を希望される方も、改めてお申し込み下さい。

## 1. 会費 二、〇〇〇円

2. 受付期間 3月1日（木）より開始。
3. 入会手続き 次のA、Bいずれかの方法。

### A 直接来館してお申し込み

- ・ 会員証…その場で発行。
  - ・ 場 所…一階情報・図書コーナー
  - ・ 申込方法…会費（現金）と入会申込書（図①）に所定事項を記入して提出。
  - ・ 受付時間…午前9時30分～午後6時（休館日を除く）
- ※展示替えによる3月の休館日は、25日（日）～28日（水）。

①

### B 郵便局からのお申込み

- ・ 会員証…三月末から美術館だよりと共に郵送。
  - ・ 申込方法…同封の払込取扱票（図②）に所定事項を記入し、最寄りの郵便局（ゆうちょ銀行）窓口にて支払い。
  - ・ 払込手数料（窓口一二〇円・ATM八〇円）は申込者負担。
  - ・ 注意事項…郵便局で払込した方は、同封の申込書（図①）を郵送する必要があるありません。
- 払込取扱票の受領証は、会員証が送付されるまで大切に保管してください。

②

### ◇郵便局（ゆうちょ銀行）備え付けの振替用紙をご使用の場合、

口座番号・加入者・通信欄に左の事項を記入して支払い。  
 郵便振替口座 00700-7-46490  
 加入者名 石川県立美術館友の会  
 通信欄記入事項  
 年齢、性別、会員の区別（継続・新規・元）、職業、継続会員の方は現在の会員番号

## 4. その他

- ◇ 会員証の有効期限…平成24年4月1日～25年3月末日
- ◇ 会員証の対象…記名者本人のみ（ご家族の方との連名受付はありません）。
- ◇ 一度納入された会費の返金はできません。
- ◇ 会員証紛失による再発行はできません。

### 会員の特典

- コレクション展に無料で入場可（要会員証・会員本人のみ）
- 企画展入場券進呈（春季・秋季・冬季三回の企画展のいずれか二回に無料で入場可）
- 企画展の開会式ご招待
- 入館料の割引（要会員証）
- ① 同伴者二名まで、コレクション展、企画展観覧料が割引。
- ② 会員本人のみ、石川県立歴史博物館、石川県七尾美術館、石川県輪島漆芸美術館、石川県九谷焼美術館、石川県能登島ガラス美術館、金沢21世紀美術館の各館主催展覧会を割引。
- 館主催諸行事への参加。
- 最新情報をお伝えする『石川県立美術館だより（本誌）』を毎月郵送。

## 訃報

重要文化財「色絵雌雉香炉」（野々村仁清作）の寄附者、水野富士子氏が昨年末、十二月八日にご逝去されました。百歳でした。当館へご寄贈下さったのが平成三年で、国宝「色絵雌雉香炉」と一緒に展示することを希望されて、他館からの要請を断ってまで当館を選んで下さいました。現在は第1展示室で雌雄仲良く皆様をお迎えしています。ご冥福をお祈りいたします。

# 竹工芸・橋本仙雪展

## —古典とモダンのはざまに—

開催の数ヶ月前から、橋本仙雪さんの展覧会を楽しみにしていますという、お声がけが何度かありました。橋本氏の作品が地元で愛されていたことを改めて認識し、展覧会が近づくにつれて、徐々に身が引き締まる思いで準備を進めてきましたが、伝統工芸展と会期が重なったこともあり、たくさんの方に会場いただきました。展示目録は会期終了前に配布が終了し、もともと橋本氏の作品が好きで、何度か足を運んで下さった方もあったようです。

出品作品三十一点については、橋本氏の技術の高さと多彩さのみならず、氏が生涯をかけた竹という素材の多様性と、その魅力を伝えるということにポイントを置き、伝統工芸展出品作のような端正で精緻な作品と、茶会などに用いる、使う人に寄り添った作品の双方を選びました。

展示に際し、正倉院御物や利休所持茶道具などの古典、中国やベトナムなど東アジアの竹工芸品にも範を求めたことを呈示して、観る人がさまざまな視点から作品にアプローチできるよう配慮しました。師である黒田道太郎氏とその注文主であった建築家ブルーノ・タウトとの関わりを示し、作家や竹工芸を身近に感じていただくため、関連資料や竹の加工道具も追加出品しています。

今回の展示には、橋本仙雪氏ご遺族ならびに関係者の方々の多大なご協力を賜りました。当館で展示を開催することで、金沢に橋本仙雪という竹工芸家がいて、こんな仕事をしてきたということ、特に地元の方々に知って欲しいという、皆様の思いを受けて作り上げることができた展示でした。この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。



竹網代色紙箱 昭和53年  
(第25回日本伝統工芸展 個人蔵)

## ミュージアムレポート どうでもミュージアム

十一月、学校出前講座が能美市立和気小学校・福岡小学校、そして野々市市立野々市小学校の三校で行われ、今年度の出前講座のすべての予定を終えました。例年は、子どもたちをはじめ、私たちもコートを着て授業をするほど寒い季節に講座を行うこともありましたが、今年は作品にも負担をかけない時期に今年度の講座を終えることができました。

鑑賞を身近に感じてもらうと行って、楽しいアートゲームの活動でも、子どもたちの作品に対する豊かな感性にはっとさせられる場面に出会います。このようにアートゲームや対話型鑑賞など形は違えども、作品を前にした子どもたちの感じる心を、豊かに引き出せるような活動を目標に、今後も講座を行っていったらと思っています。



## キッズプログラム

### 「雨でもハレの日なあに？」

特集「ハレを描く日本画」に因み、キッズプログラム「雨でもハレの日なあに」を二月八日(日)に開催しました。古式ゆかしい情緒を失いつつある現代に生きる子どもたちに、日本の折り目・節目を理解し、生活と美術の関係に興味を持って貰おうと開催したものです。ハレとケの違いを理解するため、クイズを用意。また、何が描かれているかつぶさに観察したり、どのような日に飾ったのかを考えたりしました。その中で、難しいながらもハレの心を感じて貰えたようです。





現在、東京の国立競技場に設置している同作と同一原型から鋳造した作品です。ちなみに当作品は金沢市の県西部緑地公園内にも設置されています。本館では以前、エントランスホール中央に在って、正面入り口から階段を下って企画展示室に行く際、ご来館の皆様のお目に掛けていた作品でもあり、ご記憶の方も多いことと存じます。

具象彫刻でありながらも抽象造形を思わせるシンプルなフォルムを示しており、伸びやかで澁刺とした造形は、吹き抜けの同ホール中央の大きな空間にあっても力強い存在感を発揮していました。確かな空間把握に強調と省略が調和した写実彫刻で、作者六十五歳の作品です。普通、円熟味を増すと思われがちな後々晩年の作品とは思えない革新的で生命感に溢れた作品で、人体彫刻の新たな可能性を示しています。

吉田三郎は明治二十二年(一八八九)金沢市に生まれ、県立工業学校窯業科を経て東京美術学校彫刻科に入学、主に官展で活躍します。東京を活躍拠点としますが本県との繋がりは深く、板谷波山・青木外吉をはじめ多くの県関係の師友の交わりもみえる彫刻家です。平成二十四年には没後五十年を迎え、再評価が期待されます。(本品は、二月十日より第4展示室でご覧いただけます)

## 次回の展覧会

前田育徳会 尊経閣文庫分館	第2展示室	第3～9展示室
前田家の調度 —唐物を中心に—	唐物への憧れ	第68回現代美術展
会期:3月29日(木)～4月17日(火)		会期:3月31日(土) ～4月17日(火)

## ご利用案内

### コレクション展観覧料

— 一般 350円 (280円)

大学生 280円 (220円)

高校生以下 無料

※ ( ) 内は団体料金

毎月第1月曜日はコレクション展示室無料の日

### 2月の開館時間

午前9:30～午後6:00

### カフェ営業時間

午前10:00～午後7:00

2月の休館日は  
7日(火)～9日(木)



やさしさ品質

お土産・和洋菓子・生鮮・惣菜・レストラン

地階

エムザ 食品館

広告

“もっとお客様へ、もっと地域に”

MEITETSU  
MIZA

めいてつ・エムザ

金沢・むさしがは TEL代表(076)260-1111  
http://www.meitetsumza.com/

石川県立美術館だより

第340号(毎月発行)

2012年2月1日発行

〒920-0963

金沢市出羽町2番1号

Tel:076(231)7580

Fax:076(224)9550

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>